

殺虫剤を使わない害虫防除法

害虫防除を行う前に・・・

- **被害予測**

樹木の種類を確認し、発生しやすい害虫と被害の内容および発生時期を資料などで調べておきましょう。

- **早期発見**

発生する時期に樹木をよく観察し、幼虫の発生の有無を確認しましょう。害虫の種類によって食害や生態が異なるので、特徴を踏まえたくらべて観察を行いましょう。

- **早期判断**

害虫の種類に応じて防除方法を選択しましょう。被害が小さいうちであれば殺虫剤を使う必要性は少なくなります。

- **早期防除**

安全に注意して作業を行いましょう。

殺虫剤を使わない害虫防除法の例

- **捕殺**

高枝切りばさみ、剪定ばさみ等を利用し、害虫がついた葉、枝を剪定し、切断した枝葉はビニール袋等に収集します。

チャドクガは卵、幼虫、成虫のいずれも強力な毒をもっています。振動を加えると毒毛針が飛散するため、完全防備が必須です。無理な捕殺は危険ですので注意しましょう。また、モンクロシャチホコなどは枝に振動が加わると糸を吐いて落下し逃げるので注意が必要です。

- **こも巻き**

マツカレハにはこも巻きによる捕獲が効果的です。マツカレハの幼虫は針葉樹の葉先で孵化後、10月中旬頃から樹皮の割れ目や枯葉の下で越冬します。そのため、10月初旬頃までに、地面から1mほどの高さの幹にこもを巻き、マツカレハの幼虫を誘引します。2月下旬までにこもを外して、樹皮やこもに入り込んでいた幼虫をほうきや割り箸等を使って捕獲します。

屋外樹木に発生しやすい害虫と発生時期、防除法

種類	発生しやすい樹種	発生時期	被害の種類	発見のポイント	外見の特徴	防除法と注意点
チャドクガ	ツバキ、サザンカ、チャ	4～10月	葉の食害	葉表に整然と並んでいる。	幼虫は黄色あるいは黒褐色で、白く長い毒毛を持つ。約2.5cmほどに成長する。	分散前の幼虫を捕殺(高枝切はさみ等による巣の切除)。孵化したばかりの幼虫は集団でいるので捕殺しやすい。幼虫、成虫、抜け殻などに残る毒毛針に注意する。
アメリカシロヒトリ	サクラ、ハナミズキ等 落葉広葉樹ほか多数	6～10月	葉の食害	葉を糸でつづり合わせた巣網を作る。葉脈を残して食害するので、葉が透かし状になる。	幼虫は全体に灰色の長毛で覆われ、側面は淡黄色。3cmほどの大きさにまで成長する。	巣網を切除する。分散前の幼虫を枝ごと切り落とす。
モンクロシャチホコ	サクラ等 バラ科植物	9月	葉の食害	葉に並んで群生するので、よく観察する。	幼虫ははじめ紅褐色だが、成長するにつれ紫黒色になり、白い毛が目立つようになる。長さは約5cm。	分散前の幼虫を枝ごときり落とす。
マツカレハ	マツ類	5～9月	葉の食害 (激発すると枯死)。幼虫の毒毛針に注意。	集団で新芽を食害するため、被害部分が塊状になる。枝の先に茶灰色のマユを作る。	全体が黒い長毛に覆われ、頭部は暗褐色、胴部は銀あるいは黄褐色。約6～7cmに成長する。	幼虫の捕殺(マツの剪定には要注意)。越冬幼虫にこも巻きで誘殺。毛針に注意する。
イラガ	サクラ、カキ、ウメ、カエデなど	4～10月	葉の食害	集団で葉裏に寄生し食害するため、葉が透かし状になる。地面に黒い虫糞が無数に落ちている。	幼虫はナマコ型で、黄緑色。背面に褐色の斑紋がある。多数の毒棘を備えた肉状突起が背面に並ぶ。長さは1～2.5cm。	冬季に越冬しているマユを捕殺する。若齢幼虫時は集合しているため、寄生葉を取り除く。